

【特別特典】

著名人からのメッセージ集
【2】

喜び稼ぎカンパニー



喜び稼ぎカンパニー 株式会社 CAN

【注意事項】

- 本資料は株式会社CANが作成しています。
- 無断で許可なく公開することや、二次配布などを禁じます。
- 本資料は弊社のメールマガジンに記載した内容を抜粋してまとめたものです。
- 著名人のメッセージについては、弊社が独自に収集したり、ホームページ等に掲載されたものを記載しております。
- あくまで弊社のメールマガジン読者にとって何らかの気づきになることを目的として作成されておりますので、それ以外の目的での利用は固く禁止させていただきます。

【メッセージ51】

今日は鍵山さんのメッセージをご紹介します。

絶対差を追求するためには、

何よりも過程を大事にすることです。

過程の中でも、微差僅差の追求がもっとも重要なことです。

いままでは大きいこと、多いこと、特別なことが

注目を浴びてきました。

これからの時代はそういうわけにはいきません。

わずかな差や小さなことの中に含まれている

価値が、評価される時代です。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

1日でも早く始める、少しでも工夫を重ねる、

最後の最後まであきらめない。

そんな積み重ねが大きな違いになります。

【メッセージ52】

ほとんどの企業やビジネスにおいて

「お客様の視点に立って・・・」とよく言われますが、

どれだけ本当に実践できているでしょうか。

それ以上にわざわざ「お客様の視点に立って・・・」というフレーズを使

わなければいけないくらい、普段は違う視点になって

しまっているということですよ。

そんな中、松下幸之助さんのメッセージをご紹介します。

世間の声をどのように受け止めるか。

それは神の声のごときものと考えるところから、

世に役立つ正しい行いは必ず受け入れられるという、

大きな安心感が生まれてくる。

世間を信頼し、その声に耳を澄ませたい。

(『松下幸之助：パナソニック創業者』)

【メッセージ53】

今日は稲盛さんのメッセージをお送りします。

試練を、絶好の成長の機会としてとらえることができる人、
さらには、人生とは心を高めるために与えられた期間であり、魂を磨
くための修養の場であると考えられる人・・・。

そういう人こそが、限りある人生を、豊かで実り多いものとし、周囲に
も素晴らしい幸福をもたらすことが
できるのです。

(稲盛和夫：京セラ創業者)

異動の時期、新しい期間、新しい職場、新しい気持ち。

それは試練とも言えますが、絶好の機会でもあります。

さあ、ワクワクと楽しんでいきましょう。

【メッセージ54】

今日は、テレビドラマプロデューサーの村瀬健さんの
メッセージをお送りします。

ご存じの方も多いでしょうが、

漫才は「ボケ」と「ツッコミ」で形成されます。

常識とズレた発言をするのがボケ。

そのズレを指摘するのがツッコミ。

漫才の笑いは、ボケを起点として生まれるわけです。

職場においても、適度にボケることが必要です。

なにしろ、「ボケる人=おもしろい人」ですからね。

誰だっておもしろい人には、

すすんで会いたくなるものです。

ボケる人には注目が集まり、結果として人間関係がよくなり、

ビジネスがうまくいくのです。

それに職場では、プロの芸人のように、

大笑いさせなくても大丈夫。

相手をクスッとでも笑わせれば、

「おもしろい人」と思ってもらえます。

一度でもそう思わせたら、すでにこちらのものなのです。

自分からどんどんボケていると、性格も明るくなります。

テレビで引っ張りだこの人気女性コンビ、

ハリセンボンの箕輪はるかさんは、

「性格を明るくしたいから」と芸人を志したそうです。

現在も明るいとは言えないかもしれませんが、

ご本人は「当時と比べたら、はるかに明るくなった」と

言っていました。

人を笑わせたことがきっかけとなって、

性格が変わった芸人はたくさんいるのです。

そのための第一歩が、ボケること。

ボケとは「自分が考えたことを、勇気を出して発表する」ということでも

ありますからね。

ボケることを習慣にすれば、度胸がついて、

あらゆる場面で積極性が出てきます。

「でも、スベったらどうしよう…」

そんなふうになんて不安になって黙っていたら、損をします。

むしろ、大勢の前でスベったとしたら、

そのこと自体が貴重な経験です。

一度でも失敗を経験すれば、恐怖心が小さくなります。

それまで以上に積極的に、

自分を表現することができるでしょう。

ビジネスに直結する大きなミスは、

場合によっては職を失うほど深刻です。

ですが、ボケるときにどれだけミスをして、

その場で失笑されて終わりです。

スベることを恐れていたら、いつまでも変わりません。

それにプロの芸人でさえ、

実はトーク中にスベりまくっています。

テレビ番組でもあとから編集で、

スタッフの笑い声を追加しているのです。

積極的にボケることは、精神力強化のための投資。

「お金のかからない自分磨き」なのですから、

絶対にやるべきなのです。

あなたが勇気を出してボケたのに、

相手に気づかれないこともあります。

これは往々にして、

「この人は笑わせるタイプの人だ」という

「前フリ」が弱いのです。

相手に笑う準備ができていないんですね。

この場合の前フリとは、

あなたのイメージとってください。

たとえば、爆笑問題の大田さんがボケたときは、

すぐにボケだとわかります。

普段から、ボケまくっているイメージが強いからです。

一方、渋い俳優さんがボケても、

ボケだと気づくのに時間がかかります。

笑っていいものかどうか、

微妙な空気になるときもあります。

こうした事態を避けるためにも、

普段から、ボケるところを見せておいてください。

少しずつでもボケておけば、

相手に「この人は笑わせるタイプの人だ」というイメージが

できあがります。

それが前フリとなって、ボケが伝わりやすくなるのです。

ボケ慣れしていない人は、1日に3回はボケてください。

これを毎日続ければ、

ボケることへの抵抗がなくなっていくます。

村瀬 健：テレビドラマプロデューサー)

笑いのセンスはある意味、

ビジネスと共通するところがありますよね。

少なくとも相手との距離を縮めるにはうってつけです。

だから、どんどんボケちゃいましょう。

【メッセージ55】

さて今日は元サッカー選手のデヴィッド・ベッカム選手のことを
取り上げた星野修さんのメッセージです。

ベッカムほどドラマチックな代表経験を積んでいる

選手は、そう多くないだろう。

21 歳で代表初キャップ。

3 試合目で代表初ゴールを得意のフリーキックで

決めている。

1998 年の W 杯で有名なシメネオとの確執が生じる。

執拗なシメオネのマークにベッカムは報復を行い、

退場処分を食らう。

報復と言っても、軽く脚を蹴っただけなのだが・・・

一人減ったイングランドは屈辱の敗戦に追い込まれ、

ベッカムは戦犯の十字架を背負うことになる。

続く 2002 年の W 杯で、

イングランドは再びアルゼンチンと相まみえる。

ベッカムはシメオネの挑発に乗ることなく、
キャプテンとして冷静にゲームをコントロール、
PKを決めてリベンジを果たした。

そして迎えた 2004 年欧州選手権、
準々決勝ポルトガル戦は延長 PK にもつれ込んだ。

ベッカムが PK を外し、再び戦犯として非難を浴びた。

その時のコメントが・・・

「私は非難されるたびに戻ってきます。

再び戦うために。それが私です」

言葉通り、ベッカムは 2006 年 W 杯で
再び戻ってくるとゴールを決めて見せた。

ベッカムの代表キャップは 100 を超え

歴代 2 位となっている。

まだ、記憶に新しいですが、
一流の選手も PK を外すことだってあるんです。

それも W 杯で・・・もちろん非難の嵐です。。

それを糧にまた成長していくんですね。

失敗をしない一流プレイヤーなんかいないんです。

(星野 修:HS コーポレーション)

私はサッカーの経験はほとんどありません。

体育のときに少しやったくらいです。

しかし、スポーツは全般的に大好きで自分がやるのはもちろん、

テレビ観戦なども大好きなんです。

テレビ観戦では、どんなスポーツもすぐに入り込みます。

ゴルフ、野球、相撲、バレー、スケート、サッカー、体操、

ボクシング、カーリング等々。

サッカーのPKの時にも、勝手にその場に入り込み、

この雰囲気の中で平気でいられるかなとか、

自分ならどっちに蹴るかななどと想像しています。

これがいい意味で「自分ごと」で考える習慣化に役立ちますし、

いろいろと緊張する場面でも良い訓練になっている気がします。

【メッセージ56】

今日は彫刻家の外尾悦郎さんのメッセージです。

本当にやりたいと思っていることが
いつか来るだろうと思っけていても、
いま真剣に目の前のことをやらない人には
決して訪れない。

(外尾悦郎：彫刻家)

耳が痛い人が多いかもしれませんね。
いつかやる、明日やる、そのうちやる、
と言ってる人は多分、一生やらない人です。

今を、目の前のことを、集中して本気を出しましょう。

【メッセージ57】

今日は小林正観さんのメッセージです。

1953年、映画『ローマの休日』で初主演した
オードリー・ヘップバーンは、この映画でヨーロッパの
名門王室の王女、アン王女役を演じました。
普通の女の子に憧れる王女さまが、歴訪先のローマで、
夜、お城を抜け出し、グレゴリー・ペック演じる新聞記者と
淡い恋に落ちるというこの作品で、オードリーは、
いきなりアカデミー主演女優賞を獲得し、
世界中にヘップバーン旋風を巻き起こします。
オードリーの存在を探し出したのは、ハリウッドの
巨匠監督ウィリアム・ワイラーでした。
『ローマの休日』を撮るにあたり、
ウィリアム・ワイラーは
ヒロインのアン王女役にぴったりの女優を
見つけられずにいました。

王女の品位、品格、落ち着きと明るさを醸し出せる女優が

ハリウッドにはなかなかいなかったのです。

王室がアメリカにはなかったせいかもしれません。

そこで、王室があるヨーロッパには、もしかすると王女さまの雰囲気を持っている女優がいるかもしれない、とウィリアム・ワイラーは思い、ス

カウトマンをヨーロッパに送ります。

そのスカウトマンのひとりが、当時 22 歳になっていた

オードリー・ヘップバーンとロンドンで出会います。

「彼女は、天性の華やかさと王女の気高さが備わっている。

まさに大女優になるような素質を持っている」

オードリーの中にプリンセスを見たスカウトマンは、

すぐウィリアム・ワイラーに連絡をします。

すると、彼はこう言いました。

「わかった。じゃあ、スクリーンテストをして送ってくれ。

ただし・・・」と、ひとつだけ条件をつけたのです。

「そのスクリーンテストが終わったあとも、
しばらくカメラを回し続けておくように」と。
オードリーが受けたスクリーンテストとは、
王女さまという身分から逃げ出して、取り巻きのいない場所で、
初めて自由な朝を迎えるというシーンでした。

「あー、今日は素晴らしい天気だわ、素敵な空だわ」

「カット」

ディレクターの

「これでスクリーンテストは終わりました」という声に、
オードリーは、もう一度両手を広げて
「あー、これでテストは終わったのね！」と言いました。

その時の表情が素晴らしかったのです。
その結果、オードリー・ヘップバーンは大抜擢されました。

『ローマの休日』はオードリー・ヘップバーンの原点であり、
帰結であるといわれていますが、スクリーンテストが終わったあとの
生き生きとした表情と、無邪気な笑顔こそが、
オードリーの原点だったのです。

この話から、私たちはいつどこで神さまが見ているか
わからない、ということが言えます。

逆に言うと、私たちはいつでもどこかで神さまに
見守られている、応援されている、とも言えます。

私たちは、カメラが回っているときだけ
生きているわけではありません。

カメラが回っていないところ、つまり、
周りの人たちの目がないところでも
自分の生き方ができている人は、
自然に美しい存在感が放たれるのでしょう。

(小林正観)

違う言い方をすれば、

一番の敵は自分である、ということですよね。

人が見ていない時にこそ、自分の真価が問われています。

スティーブ・ジョブズはそれをこう表現しています。

「偉大な大工は、誰も見ないからといって、

キャビネットの裏側にひどい木材を使ったりはしない」

あなたはいかがですか。

【メッセージ58】

今日は日本電産の永守さんのメッセージをご紹介します。

物事を実現するか否かは、
まずそれをやろうとした人が
“出来る”と信じることから始まる。
自ら“出来る”と信じたときに
その仕事の半分は完了している。

(永守重信：日本電産創業者)

できると信じる。

同じようなメッセージを何度かお伝えしていますよね。

信じた段階で半分が完了している。

さあ、まずはできると信じてみましょう。

【メッセージ59】

今日は松下幸之助さんのメッセージをご紹介します。

苦難がくればそれもよし、順調ならばさらによし、

という心づもりを常に持ち

人一倍の働きを積み重ねてゆくことが大切だと思う。

(松下幸之助：パナソニック創業者)

大きな方向性をきちんと持ち、一生懸命に、

しかしゆったりと構えていれば、苦難であっても、

順調であっても受けとめることができますよね。

【メッセージ60】

今日は高坂勝さんのメッセージをご紹介します。

高坂さんは大手企業の会社員をやめて、

都内で小さなオーガニックバーを経営し、

稼がない自由を手に入れた人です。

経済成長を追い求める企業でストレスを抱え

自分の時間もなく働く人生よりも、小さく自営し、

人と交流し、やりたいことをしたい。

そんなダウンシフトという働き方、生き方を伝えています。

遠回りして気づくならば、それも悪くありません。

遠回りするからこそ、気づくことだってあるでしょう。

「歳をとりすぎた」「チャンスを逃した」「今からでは遅い」

「もう手遅れだ」と言うのは簡単ですが、まずは一歩踏み出せば、

見える世界が変わります。

少なくとも「しかたない」と言い訳して諦めるよりは、

遥かにマシだし、幸せです。

遠回りは、幸せへの近道。

(高坂勝)

遠回りは、ときに素晴らしい気づきを与えてくれますよね。

遠回りをしたと思ったら、

意外に近道が見つかったりすることもあります。

たまにはゆっくりと、

いつもとちょっと違う道を進んでみましょう。

【メッセージ61】

今日は鍵山さんのメッセージをご紹介します。

資格や能力だけに安住し、力を出し惜しみしている人は、

いい人生を送っていません。

たぶん達成感がなく、

自分の人生に満足感が得られないからだと思います。

一方、資格や能力がなくても、

自分の力を出しきっているの人は、

日々、満足感を味わいイキイキしています。

いい人生を送るコツは、

持てる自分の力を出し惜しみしないことです。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

持てる力を出し切るって案外難しいものですよ。

でも、そんな姿勢は素直に恰好いいです。

【メッセージ62】

今日は坂村真民さんのメッセージをご紹介します。

さかむら しんみんさんとお読みし、仏教詩人の方です。

「癒しの詩人」と評される人物で、特に「念ずれば花ひらく」は多くの
人々の共感を呼び、その詩碑は全国、さらに外国にまで建てられて
いるそうです。

最高の人とはこの世の生を

精いっぱい

力いっぱい

命いっぱい生きた人

(坂村真民：仏教詩人)

命いっぱい生きるなんてしてみたいですね。

【メッセージ63】

坂村さんのもう一つのメッセージをご紹介しますね。

本気になると世界が変わってくる。

自分が変わってくる。

変わってこなかったら、

まだ本気になっていない

証拠だ。

本気な恋、本気な仕事。

ああ、人間一度はこいつを

つかまないことには。

(坂村真民：仏教詩人)

【メッセージ64】

鍵山さんのメッセージをご紹介します。

幸田露伴の教えに、「植福」というのがあります。

つまり、将来よいことが起こる種を

いま蒔いておこうという意味です。

たとえば、自分の裏山に桜を植えます。

桜の木は成長するのに時間がかかりますので、

植えた人自身には何の恩恵もありません。

しかし、後世の人がきれいな桜を見ることができます。

この考え方が「植福」です。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

こういう行動も格好いいですね。

【メッセージ65】

今日は斎藤さんのメッセージをご紹介します。

上手くいかないことがあっても、

それを失敗と思っちゃダメ。

それは失敗じゃないと考えるんだよ。

そして、こう自分に言い聞かせるの。

この考え方が成功するコツなんだよ。

(斎藤一人：実業家・「銀座まるかん」創業者)

これってすごく納得できます。

例えば、本当に正しいかどうかわからないことは、

そう信じたほうが結果うまくいくということです。

宇宙は全て調和が取れている。

これは誰にも答えはわかりません。

だったらそう信じて生きた方が楽だし楽しいですよ。

【メッセージ66】

さて、今日はこんな方のメッセージをご紹介します。

この世の中にある物、起きる事の全てが、

何かの答えを導き出すための

ヒントでもあるような気がしてならない。

自分自身も含めて、世の中は、何かのヒントが集まって

創られているのではないだろうか。

(爆笑問題 太田光:お笑いタレント・漫才師・文筆家)

太田さんを分筆家と表現するは少し抵抗がありますが、

彼は書籍の執筆を含めていろいろなことを考えそしてそれを発信し

ようとしていますよね。

全てがヒント。

これは激しく共感できるところです。

【メッセージ67】

稲盛さんのメッセージをお届けします。

苦難に対しては真正面から立ち向かい、さらに精進を積む。

また成功に対しては謙虚にして驕らず、

さらに真摯に努力を重ねる。

日々たゆまぬ研鑽に励むことによるのみ、

人間は大きく成長していく。

(稲盛和夫：京セラ名誉会長)

なかなか完璧にはできませんが、日々研鑽していくことが

成長に繋がることは理解できますよね。

さあ、今週も励んでいきましょう。

【メッセージ68】

鍵山さんのメッセージをご紹介します。

その人の欠点ばかりが目立つ人がいます。

原因は、持てる自分の力を

出し惜しみしているからだと思います。

かたや、長所だけが目立つひとがいます。

原因は、自分の力をいつもフルに

発揮しているからだと思います。

人に認めてもらいたいと願うのであれば、

持てる自分の力を精一杯出しきることです。

そうすれば人に必要とされる人間になれます。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

精一杯出し切ることは簡単ではありません。

しかし、人から必要だと思われたいなら、いや人から

どう思われても、精一杯力を出し切っちゃいましょう。

【メッセージ69】

中村天風さんのメッセージをご紹介します。

終始一貫、笑顔でとおすようにしてごらん。

不運な人、体の弱い人は、ひとしお、笑いに努力するんだ。

笑うにつれて、人生の幸福と幸運が

どんどん開けてくるから…。

(中村天風：天風会創設者)

終始一貫、笑顔。

シンプルですが響きます。

ここまでくると信念に近いですね。

でも、笑顔が幸福を呼んでくれることは実感できます。

さあ、今日も笑顔でいきましょう。

【メッセージ70】

今日は多分一番登場していただいている

鍵山さんのメッセージをご紹介します。

いまの日本は、力を蓄える絶好のチャンスだと思います。

景気よかったころ、「力を蓄えろ」などと言っても

誰も真剣に考えませんでした。

しかしいまは不況。

人が真剣に考えるのは、

問題に直面し境遇が厳しいときではないでしょうか。

そういう意味で、力を蓄えるまたとないチャンスを、

天がいまの日本に与えてくれているように思います。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

私もこの一年くらいが勝負だと思っています。

力を蓄える絶好のチャンス。蓄えてしまいましょう。

【メッセージ71】

「銀座まるかん」の創業者である斎藤一人さんの
メッセージをお伝えします。

『明るい良い理由』

人間は習性で明るいところに集まる。
だから、自分が明るくしてなくちゃダメ。

(斎藤 一人)

斎藤さんらしいメッセージですね。
さあ、今日も明るく過してしましましょう。

【メッセージ72】

鍵山さんのメッセージをご紹介します。

こうならないように気をつけましょう。

会議等でよく見受ける光景です。

相手の失敗ばかりをあげつらう人がおります。

そういう人は、あたかも、自分がやればできたんだと

言わんばかりの発言をするものです。

それだけの自信があるのなら、なぜ結果が出る前に

手を差し伸べることをしなかったのか。

批判だけなら誰でもできます。

大切なことは「唱道の人」になるのではなく、

「行動の人」になることです。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

さあ、あなたは行動の人になりましょう。

【メッセージ73】

美輪明宏さんのメッセージをご紹介します。

生前、人を笑わせていた人は、死んだ時に泣かれる。

人を泣かせていた人は、死んだ時に笑われる。

(美輪明宏：歌手)

さあ、私やあなたが死んだ時にはどちらになるでしょうか。

そんなことを考えるのも大切かもしれません。

【メッセージ74】

今日は鈴木秀子さんのメッセージをご紹介します。

私は正直よく存じ上げませんでした。鈴木さんの

ブログによると、東京大学人文科学研究科博士課程修了。

文学博士。フランス、イタリアに留学。ハワイ大学、スタンフォード大

学で教鞭をとる。聖心女子大学教授(日本近代文学)を経て、国際

コミュニオン学会名誉会長。

日本にはじめてエニアグラムを紹介。

全国および海外からの招聘、要望に応じて、「人生の意味」を聴衆と

ともに考える講演会、ワークショップで、さまざまな指導に当たってい

る、という経歴の素晴らしい方です。

人間の深い本能は、

人に認められたいということもありますが、

同時に自分が誰かの役に立ちたいと願っています。

ですから、自分が誰の役にも立っていないという否定的な考えにとら

われることは、いちばん苦しいことです。

私たちがうれしいことは、

誰かの役に立っているという感覚です。

しかし私たちは、何か大きな素晴らしいことをするのが、

誰かの役に立つことだという偏見に陥りがちです。

私たちが幸せであることは、

大きなことによってもではないのです。

小さなことで人の役に立つということが

人間のいちばんの幸せです。

(鈴木秀子)

小さなことで人の役に立つ。これなら私にもできそうです。

【メッセージ75】

伊藤喜之さんのメッセージをご紹介します。

「明日があるからいいや」と思って、
今日をないがしろにしていますか？
あなたにとって、「本番は今日だけ」であり、
今日以外に、本番はないのです！

(伊藤喜之:コンサルタント)

耳が痛い人がたくさんいます。
明日は永遠に明日であり、
やってくることはありませんよね。
結局は今日の積み重ねしかないんです。
今日を大切に生きましょう。

【メッセージ76】

今日は小林正観さんのメッセージをご紹介します。

私たちはみな、

「人に迷惑をかけずに生きなさい」と教えられます。

けれど、どんなに頑張っても私たちは、

人に迷惑をかけずに生きることはできません。

だから、子どもに「迷惑をかけないで生きなさい」と

教えるよりもっと重要なことがあります。

それは「喜ばれる人になりましょう」ということです。

喜ばれる存在は、勝ち負けで人生を組み立てるのではなく、

自分が喜ばれる存在になるという方向へ舵をきったら、

あとは日常的な3つの実践をするだけです。

1. 五戒(不平不満、愚痴、泣き言、悪口、文句)を

言わないこと。

2. トイレ掃除をすること。

3. 嬉しい、楽しい、幸せ、愛してる、大好き、
ありがとう、ツイてるの7つの言葉を言い続けていくこと。

「こうしなくてはいけない」という枠を自分の中から外し、
自分の枠を広げていくといいと思います。

そして、ただ目の前の人や現象を
大事にしていけばいいのです。

(小林正観)

これはまさに、「喜び稼ぎメソッド」そのものです。
喜ばれる人になる、わかりやすいフレーズですね。

【メッセージ77】

今日は、アメリカの自己啓発作家である
ジェリー・ミンチントンさんのメッセージを
ご紹介させていただきます。

私たちはよく、大きな障害を乗り越えて

勝利を収めた人の話を耳にする。

そういう話を聞くと勇気が出てくるが、

それは、自分よりはるかにすぐれた能力の

持ち主なのだと思ってしまうやすい。

だが、彼らに共通しているのは、すぐれた能力ではなく、

粘り強さなのだ。

粘り強さとは何か。

どれだけ時間がかかり、

どれだけ多くの障害が立ちふさがろうと、

必ず目標を達成するという強い決意のことだ。

あきらめたくなることもあるだろう。

障害が立ちふさがるときに、

「こんなつらい目をするくらいなら、

もっと楽しいことをしよう」という思いが

何度も心の中をよぎるかもしれない。

そんなときこそ、粘り強さが必要になる。

(ジェリー・ミンチントン：自己啓発作家)

粘り強さ。

ある意味、それを実行できること自体が能力とも言えますが、誰にで

もできる可能性がある能力とも言えますね。

さあ、今日も粘り強くいきましょう。

【メッセージ78】

鍵山さんのメッセージをご紹介します。

価格だけが競争ではありません。

もちろん、お客様にとっては

安ければ安いほどよいことです。

しかし、ただ安ければよいというだけの

お客様ばかりではありません。

価格よりも、より質の高いサービスを求めて

こられるお客様も必ずいらっしゃいます。

価格競争をする前に、サービスを見直すことが先決です。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

質の高いサービスや感動といった付加価値が必要な時代です。

一つずつコツコツと、やっていきましょう。

【メッセージ79】

今日は鍵山さんのメッセージをご紹介します。

たとえば学校の勉強。

一所懸命勉強してもしなくても、

もしかしたら試験の結果が同じ点数のときも

あるかもしれません。

「だから、勉強しても、しなくても同じ」と

考える子供がいたとするならば、それは間違いです。

今日は同じであっても、努力の成果は必ず、

明日から先に大きな差となって現われてきます。

ムダな努力はありません。

「努力は必ず報われる」そう信じてください。

(鍵山秀三郎:イエローハット創業者)

必ず意味がある。これは私の好きな言葉です。

【メッセージ80】

今日はかなり長いですが、塩沼亮潤さんのメッセージを
ご紹介させていただきます。

塩沼さんは、慈眼寺住職で大峯千日回峰行を
満行された方として有名です。

日曜日の夕方になると

「どうして働かなければならないのだろう？」と

口にする人がいます。

そもそも仕事とは「お仕える事」と書くように、

誰かに喜びを与えることであり、

社会での役割分担そのものです。

その対価として報酬をいただき、それで各自が生計を立てる。

仕事は社会という大きなしくみを維持するための大切な要です。

仕事で大切にしたいことが三つあります。

一つ目は「おかげさま」という気持ちを持つこと。

生きるということは誰かと関わることです。

人間は決して一人で生きていくことはできません。

社会で生きていくためには、

必ずどこかで誰かにささえられて生活ができます。

そして仕事を通じて、

自分が誰かをささえ喜んでいただき、

お給料をいただくことができます。

それによってご飯を食べることができ、

着るものや住む場所を得ることができます。

まさに仕事を通じたさまざまな人間関係や

経験のなかから人間性を豊かにし、成長するわけです。

二つ目は「繰り返す」こと。

縁のあった人や仕事と心から向き合い、

お互いに成長することです。

例えば、ある部下が一人前になるためには、

何度も繰り返して教えなければなりません。

また、教えを受ける側も同じ過ちをしないように、

決められたことを決められたように、

毎日繰り返し、精一杯努力しなければなりません。

お釈迦さまはこう説かれました。

「同じことを同じように情熱を持って繰り返すことで、

やがて見えてくることがある」

仕事も修行も同じプロセスをたどるのです。

三つ目は、「進化する」こと。

進化とはクオリティを下げずに

一日一ミリでもレベルアップしようとする心です。

お寺に入った初日、私は先輩にこんなことを言われました。

「いいか亮潤君、お寺での修行というのはやな、

朝のお勤めよりも夜のお勤め、

昨日より今日、今日より明日というふうに、

いつでも『過去最高のお勤め』という感じで、

毎日、全力で修行に励むんやぞ」
全く進化しようとしなない仕事も仕事なら、
一日にたった一ミリだけでも
進化しようと思一杯努力する仕事も仕事です。
表面上は同じ仕事に見えますが、
たった一ミリでも成長すれば、
一年後には三六五ミリも前進しています。
この心構えにどんな意味、意義があるのかを
後ろ姿で教えるのは先輩の義務、
また、教わったことを素直にそして謙虚に受け、
一日も早く成長しようと思がけるのは後輩の義務です。
(塩沼亮潤：慈眼寺住職)

弊社風に言えば、仕事とは喜びを稼ぐこと。

そして、感謝、繰り返し、進化。

大切なことが詰まっていますね。